

教えて、もっと！

動物のこと 植物のこと

園内のたくさんの動物や植物の中から、一部をご紹介します。担当者だけが知っている情報も満載です。お出掛け前に、一度読んでみてくださいね。

●お尋ね 市亜熱帯動植物園（☎0956・28・0011）  
※本紙13ページの施設たよりもご覧ください。



携帯用QRコード

### アジアゾウ



インドやタイに生息する草食動物です。  
（飼育員から）ハナ子は、ことし佐世保に来て35周年を迎えます。年齢は推定38歳、性格は「のんびり屋」です。ハナ子は、1日4～5回に分けて、約100kgの草や野菜、果物などを食べます。ゾウは体が大きい  
ため、背中などが見えません。そこで、健康管理のために、「トレーニング」と呼ばれるものを定期的に行います。ハナ子は飼育員の言葉を理解して、前足を倒して背中を見せたり、足を上げて足の裏を見せたり、指示どおりに動きます。これは、飼育員にけがを負わせることなく、安全に飼育するためにも大切なことです。トレーニングは見学もできるので、イベント情報を確認してみてくださいね。ハナ子は、大好きな飼育員が前を通ると、「フー」と自分から呼び掛けます。だから、飼育員は園内を通るときは、なるべくハナ子の前を通るようにしているんですよ。

### レッサーパンダ



ササを主食とする雑食で、中国やヒマラヤなどの高地に生息するので、寒さに強く暑さに弱い動物です。また、世界ではジャイアントパンダと並んで絶滅が危惧されています。  
（飼育員から）オスの海（9歳）とメスのリンリン（13歳）を飼育しています。海は人懐っこく好奇心旺盛な性格。一方、リンリンは高齢で、控えめな性格なのでいつも海の後ろに隠れています。2頭はとても仲が良く、いつも寄り添って昼寝をしています。レッサーパンダは、本来、自分の身長よりも高いところにあるササの葉を食べるので、立ち上がる行為は自然なことです。また、好奇心が旺盛な動物なので、より遠くを見たいと思って立ち上がることもあります。両手を上手に使ってササの葉を食べる姿は、レッサーパンダの一番の魅力かもしれませんね。

### ヒトコブラクダ



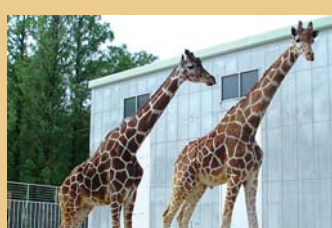
西アジアから北アフリカに生息し、家畜として飼われ、野生は存在しません。草食で、食べたものを吐き出し、再びかんで飲み込む「反芻」を行います。コブの中身は脂肪で、栄養状態が悪くなるとコブがたれてきます。  
（飼育員から）オスのノビタ（12歳）とメスのピリカ（15歳）を飼育しています。ピリカは、繁殖を目的に愛媛県立とべ動物園から借りています。10時～16時ごろに同居させていますが、2頭はとても仲が良く、体をすり合わせたり見つめ合ったりする姿は大変ほほ笑ましいです。交尾もしているの、子どもができることを期待しています。オスは、繁殖期になると後頭部から独特のにおいのする液体を分泌し、これを部屋中にこすり付けて自分の存在をアピールします。言わば、ノビタからピリカへのラブレターなんですね。

### アブダブラゾウガメ



インド洋の島々に生息し、絶滅が危惧されています。体重が150～200kg近くになる世界一大きなカメの種類です。  
（飼育員から）オスの万とメスの万亀を飼育しています。佐世保に来てことしで10年目になります。10年目の夫婦は徐々に相性も良くなり、繁殖交尾も盛んになってきています。卵も何度か産みましたが、残念ながら無精卵でした。2頭は水浴びが好きなのですが、水浴び場にはまり込んで抜け出せなくなってしまうと大変です。150kgもの巨体を飼育員総出で引き上げることもしばしば。ゾウガメには、大航海時代（15～17世紀前半）、船員の食糧になっていたこともあるという悲しい歴史があります。ゾウガメはとても長生きで平均寿命は180～200年。社会の移り変わりを一番良く知っているのは、このゾウガメでしょう。

### アミメキリン



アフリカ東部に生息し、オスは大人になると体高5mを超えます。舌の長さも50cm近くあり、長い舌を草に巻きつけて食べます。  
（飼育員から）オスのムサシ（6歳）とメスのアイ（5歳）を飼育しています。ムサシは食いしん坊で好奇心旺盛、アイは控えめで恥ずかしがりです。鼻をすり寄せることが愛情表現のようで、2頭は鼻をすり合わせます。大好きな飼育員にもしてくれます。日曜日には、ムサシへのエサやり体験ができますので、舌や首の長さを実感してくださいね。

### ミーアキャット



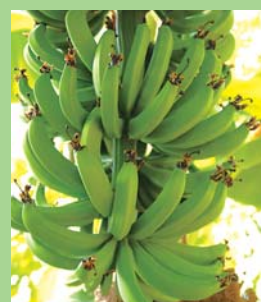
南アフリカの半砂漠地帯に生息するマンガースの仲間です。  
（飼育員から）後ろ足と尾で立ち上がる姿は有名ですが、これは周りを監視したり、日光浴したりするときのポーズです。みんなが同じ方向を向いて立っているのは、太陽に向かってお腹を温めているためだと言われています。園内で飼育しているミーアキャットの夫婦は子たくさんで、この2頭から生まれた10頭の子どもは、国内のあちこちの動物園に嫁入り、婿入りしているんですよ。

### フンボルトペンギン



南米のペルーやチリに生息し、野生では絶滅が危惧されている種類です。  
（飼育員から）オス・メス合わせて14羽飼育しています。毎年、ヒナが誕生していて、ことしは、3月27日までに6羽生まれました。15時30分ごろのエサの時間には、ペンギンが水中の魚を泳ぎながら捕まえる様子が見られます。最年長の「お父さん」は高齢のため目が弱く、飼育員が口にエサを入れてやります。飼育員が行くと、よちよちと口を開けて寄ってきますよ。

### バナナ



バナナは300種類以上あるとされ、大きくは「生食用」と「料理用」に分けられます。  
（植物担当から）実らせるためには、原産地域の熱帯アジアの気候に合わせて温度は21度以上、日当たりが良いところで、肥料をたっぷり与えることが大切です。次に大切なのが、バナナの木の根元に顔を出す2～3本の子株の選別です。栄養を無駄なく与え、日当たりをよくするため、立派になりそうな子株を1本選び、ほかを取り除きます。このように、温室で栽培するには知識と技術が必要になってきます。どんなバナナが実っているか、探してみてくださいね。

### ナベヅル（左） マナヅル（右）



ナベヅルは体が灰黒色、マナヅルは大型で顔に赤い皮膚が露出しています。  
（飼育員から）ナベヅルとマナヅルのカップルを1組ずつ飼育しています。特に、ナベヅルの繁殖率は低いので、全国的に繁殖に力を入れるよう呼び掛けられています。当園も繁殖の期待がかかる園の一つで、繁殖（飼育）環境の向上にも努めています。繁殖シーズンになると、ツルは「ディスプレイ」と呼ばれる求愛のダンスを行います。興奮するとこのダンスを飼育員にもしてくるんですよ。野生のツルがシベリアへ帰る姿が上空で見られる3月上旬には、園のツルが奇声を発することがあります。「気をつけて帰るんだよ」と叫んでいるのかもしれないね。